

本町はトマト一色 第3回 やつしろTOMATOフェスタ



▲とまピンダンスを披露するいずみ保育園児

2月1日、やつしろTOMATOフェスタが本町アーケードで行われ、多くの人で賑わいました。

本町2丁目の空地に設置されたメイン会場ステージでは、トマトファッションショーやとまピンダンス&パフォーマンスショーなどがありました。トマト早食い競争には、約30人が参加。口いっぱいにはおぼる姿に歓声が飛んでいました。

ステージ周辺では「トマト食の広場」と題し、トマトラーメンやトマトバーガーなどトマトを使った創作料理の店舗が並び、多くの人が買い求めていました。

またアーケード内の広場で行われた「1000人トマトなべ振る舞い」では、時間前から長蛇の列ができ、開始から約30分でなくなるほどの人気でした。

白上咲さん（松高小2年）は「毎回楽しみにきました」と笑顔で話しました。

くまもと県民文化賞を受賞 写真家 麦島勝さん



▲蒲島知事から表彰を受ける麦島勝さん(中央)

本市の写真家・麦島勝さんが、地域の文化振興に貢献したとして、1月16日に県庁で蒲島知事から第25回「くまもと県民文化賞」の表彰を受けました。

麦島さんは昭和22年から県内各地の農山漁村や街で人々の日常の暮らしを中心にとした写真を撮り続け、数々の賞を受賞。後進の育成にも尽力しています。写真展の開催や写真集の出版活動など幅広く活動し、地域の歴史文化を広く発信し続けていることが評価されました。

受賞後、麦島さんは「中村市長同席のもと蒲島知事から直接表彰いただき感激した。知事にも写真を紹介したが、二度と撮れないものが多く、これまで写真を撮ってきてよかったなと改めて思った。私の写真が後の世まで役に立ってくれればありがたい」と語りました。

麦島さんは昨年8月に3122点の貴重な写真資料を市に寄贈しています。

八代で初キャンプ ザスパクサツ群馬



▲体の正面でボールをキャッチ

サッカーJ2のザスパクサツ群馬が春季サッカーキャンプのため八代市を訪れ、2月7日に歓迎セレモニー、2月11日にサッカー教室が県営八代運動公園陸上競技場で行われました。プロサッカーチームが八代でキャンプを行うのは初めてです。

サッカー教室では市内の小学生98人が参加しました。はじめに、今季同チームに入団した秀岳館高校の大岩亮太選手がチーム選手を紹介。その後、レクリエーションやボールを用いたウォーミングアップをしながら、選手と小学生は交流をしました。ゴールキーパーの指導では、ボールのキャッチの仕方や準備姿勢などを選手が指導。実際にボールを蹴ってキャッチを行うなど、実践に近い形の練習を行いました。千丁小6年の宮本鉄平くんは「習ったことを日頃の練習で磨き、実践に生かしたい」と語りました。

八代城跡群を見れば 日本の城の変遷がわかる 八代城跡群国史跡指定記念シンポジウム



▲専門家の視点で議論が交わされたパネルディスカッション

2月7日、厚生会館で八代城跡群国史跡指定記念シンポジウム「古麓城から麦島城、八代城へ」八代城跡群を見れば、日本の城がわかる」が開催され、約400人が専門家の説明に耳を傾けました。

文化庁文化財部記念物課文化財調査官の浅野啓介さんや滋賀県立大学教授の中井均さん、熊本大学名誉教授の北野隆さんが講演を行った後、織豊期城郭研究会の加藤理文さんをコーディネータに、3人の講演者でパネルディスカッションが行われました。「古麓城のような中世の城の場合は山上からの眺望を確保し、位置関係や堀切、土塁がわかるように土木技術を見せることが大切」との指摘や「八代城の石垣の保存のために、環境保全や公園としての活用と共存共栄しながら樹木の整理を進めていくことが必要」との提言などが行われました。

100歳 おめでとうございます



森永 ツヤ子 さん
(本野町)

大正4年1月17日生

8人兄弟の長女として坂本で生まれ育ったツヤ子さん。結婚して3人の子どもを育てました。声がかきれいと評判で、京都や奈良で開催された御詠歌の全国大会に出場した経験があります。お茶やお花のほか、料理が好きでいつもみんなにご馳走していました。県外にいる子どもたちにも、手作りのミョウガまんじゅうを送って喜ばれていたそうです。長寿の秘訣は「85歳頃から毎日野菜ジュースを飲んでいました」と。

八代市校区対抗駅伝競走



▲スタート直後の先頭争い

第10回市校区対抗駅伝競走が1月18日に開催され、19校区18チームがたすきをつなぎました。県営八代運動公園陸上競技場を発着点に10区間31.2kmのコースを選手たちは走り抜きます。1区では八千把校区の米村凜さんが力走し、トップでたすき渡し。前半で波に乗った八千把校区が一度も首位を譲らず、1時間41分13秒で2年連続3度目の優勝を飾りました。八千把校区の上寄裕貴監督は「今年は高校生がいなくて不安だったが、予定通り前半で流れを作ることができた。後半の選手たちも期待に応えてくれた」と優勝の喜びを語りました。

彦一を食べてあるくべし



▲旧堤防の上で千仏町が舞台のお話しを聞く

1月17日、彦一とんち話の舞台となっている場所を見てまわり、新ご当地グルメ「八代ひこいちDON」を食する「彦一を食べてあるくべし」が開催され約50人が参加しました。熊本高専八代キャンパスの森山学准教授らから、とんち話に登場するゆかりの店や舞台などの話を聞きながら、約2時間散策しました。その後、市内11飲食店で提供される「八代ひこいちDON」の出前によるランチを楽しみました。菊池市から参加した本田保美さんは「初めて八代の街を歩きましたが、説明のおかげで多くの気づきがあったワクワクしました」と話しました。

世界の料理教室



▲会話を楽しみながらエビチリを作る参加者

1月25日、市保健センターで「世界の料理教室（中国編）」が開催され、市民や熊本県立大学の学生など約40人が参加しました。これは、料理を通じて国際理解を深めることを目的に行われており、今回で11回目です。中国出身で同大学生の蘇琳さんと蔣明さんを講師に、参加者は「揚州チャーハン」や「エビチリ」「中華風スペアリブ」を調理しました。中国語で「我不客气了（いただきます）」と言って「スぺアリブは一度ゆでたから柔らかい」「日本人の口にも合う味付け」などの声がかれました。

親子能楽体験教室



▲仕舞に挑戦する親子

親子能楽体験教室が1月23日に代陽幼稚園で行われ、園児や保護者ら約50人が参加しました。伝統芸能である能楽を子どもたちに体験・学習してもらおうと八代妙見祭活性化協議会が実施。代々細川藩に仕え、松井家とも縁の深い金春流櫻間家の櫻間右陣さんを講師に招きました。参加者は「老松」という演目の謡を真似て覚えたと、扇を使った仕舞を学び、座り方や扇の持ち方など一つ一つの動作を体験しました。また、代表2人の園児が能楽の装束を身に付け、装束の種類などについても学びました。

「くまモン」ラッピング列車2号



▲くまモンや園児がラッピング列車をお出迎え

肥薩おれんじ鉄道の「くまモンラッピング列車」2号の出発歓迎セレモニーが1月20日、八代駅で開催され、保育園児やくまモンファンなど約50人が集まりました。くまモンが描かれたラッピング列車1号は平成24年7月に運行を開始。同列車2号の追加運行が平成27年1月16日にスタートしました。同列車1号と2号が2両連結で八代駅に到着すると園児たちは大興奮し、笑顔を見せていました。また、セレモニーに駆けつけたくまモンと一緒に列車に乗り込み、八代駅から日奈久駅まで肥薩おれんじ鉄道の旅を楽しみました。



伝統文化親子教室発表会



▲日本舞踊を披露する郡築教室の生徒

1月31日、伝統文化親子教室発表会が厚生会館で行われ、約760人が訪れました。伝統文化親子教室は、子どもたちが伝統文化を習得し人や自然を大切にすることを育むとともに、次世代へ継承していくことを目的に実施されています。小学生から高校生まで約250人が日舞や茶道、華道など19教室で活動中。同教室の発表会は今回で13回目です。各会場では書道・華道の作品展示や子どもたちのお手前による茶会、日本舞踊や民謡などの発表が行われ、日頃の練習の成果を一生懸命披露する姿が見られました。

文化財防火デーに伴う防火訓練

1月26日の第61回文化財防火デーにちなみ、1月27日に本町3丁目の安養寺で防火訓練が行われ、地域住



▲「火事だ」との声で本堂に駆けつける参加者

民ら約50人が参加しました。これは、市民が文化財の防災について意識を高めることを目的に、毎年市内の文化財建造物で実施されています。はじめに火災発見時の初動と119番通報の仕方を学んだ後、消火器取扱いの訓練。次に安養寺本堂から火災が発生したと想定して、火災発見・通報・初期消火および重要物品（文化財に見立てた段ボール箱）の搬出を行いました。通報を受けた消防本部と消防団が駆けつけ、消火活動までの作業確認が行われました。

金剛小学校児童と市長が給食会食



▲中村博生市長と会話を楽しむ児童

1月24日から30日までの全国学校給食週間にあわせて1月26日、中村博生市長が金剛小学校を訪れ、6年1組の児童27人と給食の時間を楽しみました。給食の献立は、うまかコロッケ、冬野菜のサラダ、トマトと卵のスープ、ミルクパン、牛乳。中村市長と対面した児童たちは緊張の面持ちでしたが、慣れてくると会話も弾み、教室は和やかな雰囲気になりました。中村市長の隣で給食を食べた森枝絃生くんは「市長と一緒に食べた給食は、いつも以上に美味しかった」と笑顔を見せました。

いっそDEフェスタ2015



▲寸劇「八代彦—とんち話して考えよう」を熱演する八代みらいネット会員

2月8日に行つろハローニーホールで行われた「いっそDEフェスタ2015」。「向きあい、語りあい・認めあい、男女にめざそう調和の社会」をテーマに、講演会や寸劇、ワークショップ、展示などがあり、多くの人が訪れました。講演会では、東京大学大学院総合文化研究科の瀬地山角教授が「笑って考えよう、生活と仕事『何かおかしいな？』を解決するヒント」と題し登場。「男性のワークライフバランスが重要で、社会的に変えていく必要がある」との話に、参加者はメモを取るなどして聞いていました。

水とみどりのふれあいスクール



▲森林インストラクターから人工林についての説明を受ける参加者

2月8日、水とみどりのふれあいスクールが水無川ほたるの里公園（妙見町）で行われ、市内の緑の少年団や小学生、保護者など約130人が参加しました。妙見創造の森の散策と間伐見学、シイタケのコマ打ちなどがあり、森の散策では森林インストラクターと一緒に出発。土砂防止などの森の働きや木の種類・特徴、人工林と自然林の違いなどについて説明を受け、参加者は熱心に耳を傾けていました。太田郷小2年の吉永蒼汰君、松田賢道君は「イノシシのお風呂場などを初めて見ることができ、楽しかった」と話しました。

金剛小学校 新校舎落成記念式典



▲完成した新校舎

2月8日、金剛小学校体育館に本校と弥次分校、敷川内分校の総児童292人と教職員や保護者、来賓など計約500人が集まり「金剛小学校新校舎落成記念式典」が開催されました。創立139年となる金剛小学校に、鉄筋コンクリート3階建て延べ床面積3333㎡の新校舎が完成しました。ユニバーサルデザインや安全面に配慮し、エレベーターを装備したり、屋上と3階に津波避難のスペースが準備されています。式典では、6年生の秋永渉佳さんが「新しい校舎での友だちとの楽しい学校生活を大切にします」とお礼の言葉を述べました。